令和４年度第４回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会　議事要旨

日　時：令和５年３月８日（水）
13 時 30 分～17 時 00 分
場　所：青葉区役所４階会議室
出　席：島田委員長、青木副委員長、小川委員、
加藤委員、齊藤委員
※過半数の出席により委員会成立

1　開会

2　挨拶　仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会委員長　島田　福男

3　議事

（1）議事録署名人選定　　齊藤委員
※議事内では加藤委員が選定されたが、後日齊藤委員に変更

（2）令和５年度まちづくり活動助成事業計画説明会
◇各団体プレゼンテーション
◇質疑応答意見等

①　一般社団法人　芭蕉の辻まちづくりの会

委員　　まちづくり協議会とまちづくりの会のイメージがよくわからないのだが、2018 年に設立したのはまちづくりの会か、それともまちづくり協議会の方か。

説明者　　会のほうだ。協議会を立ち上げないと、仙台市とのいろいろな事業が難しいということで、協議会を立ち上げた。

委員　　役割分担で、運営と渉外はまちづくりの会、調整と承認はまちづくり協議会となっているが、今回はまちづくりの会として申請されたわけだ。今発表した内容はまちづくりの会でやった活動ということでよいか。

説明者　　そうだ。主体として、あるいは協力としてということになる。

委員　　収入の部に講演会参加費 800 円×100 名×２回で 16 万円ということだが、一方支出の部の助成対象経費に講演会が盛られ、トータル合わせると 14.2 万円になるが、これまでおそらく講演会参加費というものがこの費目に充てられていたと思うが、二重になってくるのではないか。本来は講演会参加費で講演会というものがまかなえるのが一番わかりやすい、透明だと思うが、この点助成金との関わり具合を含めて、ご説明いただきたい。

説明者　　今までコロナということがあり、参加者数が必ずしも掴みきれないということがあった。100 人の会場を借りても 50 人しか入れないとか、あるいはコロナで人が来られないということがあり、今回はある程度コロナ収束を見越して予算立てをし

た。今まではコロナのためにその回ごとに収入が大きくばらついていたが、これからは少し安定して見込めるということで、予算立てをした。

委員　収入で講演会参加費があり、これがシンプルに講演会の開催に充てられるのが一番わかりやすいと思う。しかしこれはそういうかたちではなく、二重になっている。そうすると講演会参加費というものは、どこに行くのか。

説明者　会場費、講師謝礼、その時に配るパンフレット、事前準備のためのチラシといったものになる。

委員　申請事業の内容の確認だが、講演会、七夕の短冊通り、絵画展、この３つに関する事業を想定してり、説明にあったバスツアーは別と考えてよろしいか。

説明者　バスツアーは旅行業者でなければできないので、私どもが主体となって、お金を集めてバスツアーをするのは旅行業法に触れるので、あくまで主体は旅行業者であり、助成の対象としてはいない。

委員　説明の中にあったので、今回の事業のご提案の部分の確認をさせていただいた。

委員　今年１年目の申請だが、昨年まではその事業に必要な、例えば七夕の笹竹 22 万円など結構高額なものがあるが、そういったものはどのような手当をされていたのか。

説明者　各町内会、各商店会、商工会の方に寄付をお願いをさせていただいた。

委員　今まではそれで回ってきたが、今年度以降、その寄付ではいけなくなった理由は何かあるのか。

説明者　例えば商工会に寄付をお願いと言っても、今コロナで商工会も大変厳しい状況となっているため、去年と同じ額を最初からいただけるものというような予算立ては当然できず、できればそれについては自前の経費でやりたいということがある。他に新しい事業が今まではなくて、役員借入金という形ですべて処理してきており、そういったものに対しても少し目を向けて、改善を図っていきたいと思っている。

②　特定非営利活動法人　作並・新川地区活性化連絡協議会

委員　プレゼンのパワーポイントを見てすごくデザインがすてきなマークなどがあり、地域内のデザイナーの協力を得るなど、地域内の方のそれぞれの人材を活用されている様子があるが、その辺をご説明いただきたい。また、それぞれ消耗品や講師代など大きな金額は書かれているが、それ以外は、それぞれの会費等でまかなうという考え方でよいか。事業がたくさんあり、全部をやるのにこの予算で足りるのかと感じた。

説明者　いろいろな図案やチラシなどについては、地域に居住するイラストレーターなどに昨年度までもお願いをしてやってきたところだ。今後もその方にお願いをしながら、いろいろなチラシ、ポスターなども作成していきたいと思っている。ひまわりの花事業には、その方が下絵を描いていただいたものを、参加者の方で看板を作成、色塗りをするなど、そういったことも考えていきたいと思っている。費用の部分については、今回助成をしていただける金額だけではまかなえない部分があると思うため、会員からの会費を予定している。あとは会費以外に、協賛金や、協議会とし

て活動をして収入を得ている部分というのが若干あるので、不足している部分については、そちらの協議会の収入から、今回のいろいろな事業の方に充てたいと考えている。

委員　おもてなしフラワー企画とウォークマップの参加費および負担金収入が８万円となっているが、単価と人数を教えていただきたい。

説明者　おもてなしのフラワー企画およびウォークマップの企画については、参加する方の保険代などを込みで考えており、参加費 2,000 円ぐらいでの見込みをしていたと思う。参加者の人数については、どのくらいの定員を設けるのか、それとも定員を設けずに、ある程度大勢の方に来ていただけるような企画にするのかというところもまだ確定している部分ではないため、会議の中でもんでいきたい。

委員　クレソンの栽培で、重機のレンタルとオペレーター等の謝金があるが、重機のレンタルは何日分か。

説明者　重機はいわゆるバックホーといい、バケットで泥を上げる機械になる。リースで２日を予定している。地元にオペレーターを以前やっていた方がおり、クレソンの会の会員の方だが、その人に作業代金としてお支払いをしてこの費用でやっていきたいと考えている。

委員　オペレーターの謝金は２人分ということでよいか。

説明者　そうだ。

委員　報償費で運営アドバイザーの謝金２万円とあるが、これは何人分か。

説明者　ウォークマップの周遊企画の報償費については、内容も含めてどのような形でやったら楽しくできるのかというようなものも考えており、その部分については１名の方に支払いをと考えている。

委員　新川田植え踊りの講師謝金が５万円になっているが、何人分、あるいは通してやるなら何日分なのか。

説明者　謝金は年間通してを想定している。練習の回数まできっちりとは設定していないが、大体１回あたりおよそ 5,000 円程度、回数としては 10 回程度を想定して見積もっている。

委員　クレソンについて、作並温泉などへ安定的に提供していくという話だが、やがてこの事業が経済的に自立するというか、だんだん収益を上げるかたちになり、それがこの NPO の活動の取り組みに入ってくる可能性はどれぐらいあるのか。また支出で賃借料、報償費とあるが、こういう地域でおそらく農業関係の多面的機能支払交付金みたいなものがあると思うが、関連を教えていただきたい。

説明者　収益性についてだが、クレソンの会を立ち上げた理由が、地域の高齢化で堀の周辺の草刈りなどの保全業務が非常に困難になってきたという事情がある。協議会のメンバー、クレソンの会のメンバーが地元の方と一緒になって、草刈りや堀の管理をやるという前提で始まったものだ。クレソンは、地元の方が昔からここに自生していたものを大切に保存して、これを受け継いでいけるようにしたいという、そういう強い思いがあったから、協議会の活動として一緒にやろうという話になっている。そういった意味もあって、休耕田を使ってそこに水を引き入れて増やすという

ことをこれまで2年ぐらいやったが、非常に難しく、天候に左右されるし、水のきちんとした流量がないとなかなかうまく育たないため、安定して増産、量を増やすということが非常に難しい。今のところ、温泉旅館組合で積極的に使っていただくということで、販売の方をそちらでお願いしており、実はほとんどが組合員の手待ちで、ボランティアでやっているような状況である。堀をきちんとした水量にした上で休耕田にもう少し増やして、収益性を上げていくという取り組みをしたいと思っており、そのためのこの新年度の事業は、きちんとしたかたちを整えるための事業というふうにとらえている。また、農地保全の多面的機能交付金については、実はこのエリアはもともとは田んぼだが、耕作放棄地で長年手をかけてないもので、立木が伸び、基本的には多面的な農地に該当しないという扱いになっている。そのためその補助が使えないという事情もあり、何とか補助をいただければ、堀の保全管理を少しでもやっていけるということでお願いしているところだ。

委員　申請はNPO法人の協議会ということでよろしいのか。協議会は任意団体で現在も残っているのか、発展的解散という形でNPO法人の方にすべて活動が移管しているのか、その辺は実態としてはいかがか。資料の中で、協議会の規約が提出されているようだが、申請が法人であれば、定款をお出しいただくのが正式なだと思う。共存しているのであれば、この協議会の規約というものが現在も存続しているので、たまたま提出の書類を間違えたということかと思い、実態の確認をさせていただきたい。

説明者　活動については、現在、NPO 法人の方にすべて移行をしてやっており、その中で、部会を設けて活動をしているという状況である。

委員　任意団体の協議会は、組織としてはない、解散しているという認識でよいか。部会というものは、法人の方に紐づいた活動体であるという認識でよいか。助成金は公金になるので、受け手の方の体制や会計の取り扱いという部分の透明性も問われるかと思ったので、実存として任意団体があるのかないのか、法人として全部移行しているのか、そういった部分の確認の上で質問をした。書類としては定款の方を出し直す方がよろしいかと思う。

③　関山街道フォーラム協議会

委員　助成金の30万円を事業の中のどこで使いたいのか。ワークショップや講演会、シンポジウムを企画する中での一部を助成金に充てたいという感じか。

説明者　主な活動内容のところに「日本風景街道関連」と書いているものが、今回の助成金を充ててやりたい内容になっている。9月ぐらいからワーキンググループを作って活動したり、ワークショップを、山形側でも開催したいが、宮城県側でももう一度合同で開催するというようなことができればと考えている。予算としてやはり大きいのは、11 月ぐらいにシンポジウムを開催できればということで、これは東北の風景街道協議会の委員をされている堀繁先生に、予定なので確定はしていないが、そういう先生方に、日本風景街道のことについて語っていただければと考えている。

委員　シンポジウムやワークショップは、会員の皆さんというよりは一般の方に向けて

実施をするのか。

説明者　そうだ。基本的にパートナーシップを組む構成団体は、地域の団体などが中心にならざるをえないが、やはり応援団としてルートをみんなに認識してもらい来てもらわなきゃ駄目なので、そういう意味では一般の人にアピールする場も必要かと思っている。今 21 ある団体のルートは疲弊しているところも多い。２，３年かけてこのルート登録を目指そうということで去年からやっているが、立ち上げてすぐに運営ができなくなると困るなど行政側の判断もあり、しっかりそういう下地づくりをして動かしてくれという要望を受けている。

委員　ルート登録の仕組みは、こちらからの申請でどこかの機関があってということなのか、それとも活動の実態を個別に審査会みたいなものに評価されてのことなのか、そのあたり教えていただきたい。

説明者　基本的にルート登録は申請だ。申請時期は決まっていないが、準備ができて申請書を出して、それで審査を風景街道協議会委員のメンバー、各県の部長や経済連合会、商工会など、そういう方々が、割とすごいメンバーが委員になっているが、そちらの方に申請して認められればというものだ。

委員　申請に必要な項目なり実績なりと、今まで活動している協議会での取り組みが合致しており、そこに今年度、この助成事業に申請している内容の部分があることで、登録申請にもより後押しになるということか。

説明者　堀先生には現地視察も１回していただいており、やってきた内容も含めて、パートナーシップを組む構成団体がしっかり地域にあること、ルート登録に合致するような資源がしっかりあるかということ、あとは活動の継続性、その辺がちゃんと認められるかどうかというところが、判定基準の大きな要因だというふうには聞いている。

委員　構成団体が現在 18 団体でこれをまとめるのは大変だと思うが、この中に現在も青葉区から助成をもらっている団体が結構ある。回文の里づくりや NPO 法人作並新川地区活性化連絡協議会、白沢カルデラもそうだ。その方たちの団体とは普段は別に活動していて、この関山街道フォーラムの時には一緒に集まって活動するというとらえ方でよいか。

説明者　基本的に関山街道フォーラム自体が、それぞれの活動団体と一緒にやるということではなく、プラットフォームとしてそういう活動を支えていくという協議会組織だと思っているので、それぞれの活動はそれぞれの活動で当然やってもらうし、予算も、それを使って協議会で何かをするということでは当然ないというふうにとらえている。

委員　確かに 18 団体もあれば、プラットフォームとしての役割は大切だと思うが、それぞれの団体が青葉区から助成金をもらって同じような活動をしており、助成金がダブらないのかという面もある。１つは白沢カルデラプロジェクトの講師謝金として２万円当ててあるが、白沢カルデラ自体も助成金をこちらに申請している。その辺をどうやってとらえたらいいかと思っている。

説明者　そういうご指摘があるのであれば、当然カットするなり、そういう支援をしない

かたちのものも考えたい。基本的に私たちの協議会の活動は、そういう人たちから人を出してもらい、運営スタッフとして一緒にやってもらうかたちでやってきているが、10 年前と人は変わっていない。新しい人たちに入ってもらうためにも、あるいはこの地域に関心を持ってもらうためにも、ネットワークなり違った展開として、今回のプロジェクトで、山形側とも仙山交流ということで連携しつつやっていきたい。それぞれの活動はそれぞれの活動で頑張ってもらわなきゃ駄目で、それはそれでやってもらった上で、それを補完するようなプラットフォーム的な活動に、シンポジウムやワークショップなどは１団体ではやりづらいので、こちらの支援をいただければと考えている。

委員　　４月から毎月のように何らかのフォーラムやワークショップ、シンポジウムが入っているが、結構大変だと思う。実際にこういったものをやるときに、動ける方はどのくらいいるのか。

説明者　事務局メンバーとしては、大体７人～10 人ぐらいだ。以前、鉄の道部会と土の道部会といった部会制にしていたが、部会を運営するスタッフなどが高齢化や、もうできないということになり、今はプロジェクト制にした。このプロジェクトならやってもいいと手を挙げてくれるなど、白沢カルデラも実はそういう関係もあって、バックアップはしてはいるが、そういう形で出てきており支援している。さくらプロジェクトは別の助成金をもらっているが、それでもやってくれる人が現れ、運営に協力してくれる人がいて成り立っている。

委員　　例えば昨年など、過去に同じようなスケジュールで年間活動していたことはあるか。

説明者　日本風景街道関連でないものは、ほとんど継続しているものだ。そのためそれほど難しくはない。ただコロナ禍で人を呼べず、参加者は関係者だけになるなどいろいろあるが、そのようなかたちでやっている。

委員　　それに含めて来年度は、風景街道関連の事業が入ったということだ。今までやってきたことに風景街道関連の事業が乗っかって、無理があるような感じはするか。

説明者　パートナーシップを組む構成団体が、山形も含めてどういうところが関わるか、道路行政などが今後どう関わるのかにもよる。東北地方整備局でこれに対し何万円つけますという話はないので、自分たちがやはり自立した活動として、あるいは例えば、負担金などを出してもらうなどで運営していく。その企画内容を、今後ワークショップや企画委員会などで決めていく。だから今何をするかというのが固まっているわけではなくて、今後その辺をやれるような組織、仕組みづくりを２，３年かけてやりたい。

委員　　あれもこれもと入れすぎて、実施できなかったということになると非常に残念なので、その辺うまく組み立てていただきたい。

④　西川前びーんずクラブ

委員　　令和６年度はどういうことをしようとお考えか。

説明者　初めて作った味噌のでき方の振り返りをしながら、自分たちだけでもできるとい

う感覚を覚えていただいて、一緒に味噌を作り、できた味噌でみんなで、例えばお汁物をいただいて、そこで交流をしてそのあとにつなぎたい。そんなに１回にはたくさん進めないので、１年に１つぐらいずつ続けていこうというゆるい計画だ。

委員　令和元年４月頃に団体をつくられたと思うが、この西川前地区でこれまでどういう取り組みをしてきたのか教えていただきたい。

説明者　レンゲまつりというふうなところで、地元のよもぎを摘んで、外から見に来てくれたお客さんによもぎ餅を作ったり、地元でとれたお野菜で豚汁を、本当に 1 杯 100 円ぐらいの感覚で、地元のものを提供したりというふうに、収入を得ないボランティア活動は数多くやってきた。また昭和の初期の婦人会のような活動が今は廃れているので、それに代わるようなポジションで、私たちは地域を応援している。

委員　味噌作り講座をするにあたって、誰が教えて誰が習うのか。それからびーんずクラブの役割というのは、どの辺にあるのか。

説明者　びーんずクラブの役割というのは、開催する場所に一番近いので、前日からの会場の整備だったり、消毒作業だったり、終了後の後片付けおよび味噌を皆さんにお渡しするまでの保管というところで思っている。講師は、まず宮城県味噌醤油工業協同組合に、お願いのお電話を、こういう企画を考えているがご協力いただけないかとお話しているが、やはり味噌醤油組合も、コロナで売り上げが落ちているということで、今までは小学生向けに味噌づくり講座をやっていたが、それも今年からはやめようと考えているという返事なので、みやぎ・環境とくらし・ネットワークや、それが駄目であれば、すずめ農園の前川先生などに打診していく。講師はまだ、この人という断定はない。ただ、豆を洗って、水につけて寝かせて蒸して叩いて、いろいろな麹などを混ぜてというところまで教えてもらえるような先生を探したいと考えている。

委員　習うのはどなたか。

説明者　習うのはまず、７人のメンバープラス、地域の町内会、それから地域にもう１つ青年の団体が、青年といっても 60 歳以上だが、そういう団体に声をかけ、それでもまだ人が集まらないという状況も踏まえて、市民センター等にチラシを置いていただいて、固定電話になるがそれで申し込みをいただいて、興味関心のある方を定員 30 人くらいで募集できたらと思っている。

委員　せっかく西川前地区で自分たちの味噌づくりをするという基盤があるのであれば、工業組合などに依頼すると一般的な味噌ができるような気がするが、スーパーで売っている味噌を作ってもしかたがないと思う。地元の人たちが作ってきた味噌というのをもう１回作ってみようというのが、この会の意義だと思うのだが。

説明者　広瀬味噌をお作りになってきた人たちは皆さん高齢でいなくなってしまった。ただ、こちらに文献があるが、広瀬味噌を作ったときの、仙台旧城下町に所在する民俗文化調査報告書の中に、仙台味噌と称して私たちのところで作った広瀬味噌の情報が、麹が何％で大豆が何％でというふうに記されているので、少なくともこれを参考に、先生に意見をまとめてもらいながら、やっていきたいと思う。そして今年は麹まではつくれないので、できた麹を使うしかないが、だんだん慣れてくればそ

ういうところも、場所も設備もあり、1回やれば何でも習得するおばあちゃんおじいちゃんだったりするので、そこは期待できるかと考えている。

委員　　講師料について、１回２万円で３回分の申請があるが、結構いい値段だと思う。講師料としては、もし決まっていないのであれば、組合に味噌の作り方のノウハウだけ文書かなにかでいただく、あるいは私たちの地域では、明成高校と一緒になって味噌づくりをしているが、明成高校には食文化創志科があり、気軽に作り方は教えてくれるので、そういうところに声をかけるのも１つかと思う。また、会場の利用料のところで、集会所あるいは町内会の管理している加工場の割には、1回 4,000 円は高いような気がするが、これは集会所の管理規則で決まっている価格なのか。

説明者　　決まっているのは１回大体 3,000 円だが、それに光熱費を入れた。だから変動はある。

委員　　我々の集会所では、夏場と冬場で分けており、光熱費込みでいくらという金額を出しているが、ここでは違うようだ。

説明者　　利用する人の内容によっては、地元の人ばかりだったら利用料はいらないという規則ではあるが、やはり１人でも外部から興味関心ある人が来てくださるのであれば、１つのイベント企画事業として、町内会にもお願いしたいと思っている。

(3) 令和 5 年度まちづくり活動助成申込事業の評価及び選考

① 一般財団法人　仙台 YWCA

（ア）協議結果：助成事業として採択する。

（イ）評価委員からの意見

・包括支援センターや市民活動サポートセンターとの連携協力等もすばらしいと思う。

・SNS の更なる活用をしてみてはいかがか。

（ウ）助成額について

・助成額を 200,000 円とすることが妥当である。

② 白沢カルデラプロジェクト実行委員会

（ア）協議結果：助成事業として採択する。

（イ）評価委員からの意見

・3 年目の助成金目標 50 万に対し、看板の作成に 45 万はもったいない気がする。予算配分を見直す必要があるのではないか。

・看板の製作に会員の意見は反映させた方がよいと思う。

・会員のすそ野を広げる活動をした方がよいと思う。

（ウ）助成額について

・助成額を 350,000 円とすることが妥当である。

③ ドゥーラせんだい

（ア）協議結果：助成事業として採択する。

（イ）評価委員からの意見

・少子化の時代にあって女性に寄り添う事業として期待している。
・広報費が多すぎると思うし使途もあまり明確ではないので、見直しをお願いしたい。
・事業として広がると良いと願っているが、関わる皆様の意識をもう少し他者優先目線にして頂けたらと思う。

（ウ）助成額について
・助成額を 250,000 円とすることが妥当である。

④　くよみ郷土研究会

（ア）協議結果：助成事業として採択する。

（イ）評価委員からの意見
・都市緑化フェア等で活動成果が発表できると良いと思う。
・興味を持って参加して下さる方を増やすよう努力していただきたい。

（ウ）助成額について
・助成額を 90,000 円とすることが妥当である。

⑤　定禅寺リビングストリートプロジェクト

（ア）協議結果：助成事業として採択する。

（イ）評価委員からの意見
・仙台のまちのにぎわいの為にも頑張って頂きたいと思う。
・地域の個性である定禅寺通を活用することはよいことだと思う。

（ウ）助成額について
・助成額を 255,000 円とすることが妥当である。

⑥　tuku-tuku 実行委員会

（ア）協議結果：助成事業として採択する。

（イ）評価委員からの意見
・作並地域やラサンタの活用をした地域の活性化はよい事業だと思う。
・来店者や出店者のアンケートをとって、次回以降の参考にするとよいと思う。

（ウ）助成額について
・助成額を 105,000 円とすることが妥当である。

⑦　せんだい 21 アンデパンダン展実行委員会

（ア）協議結果：助成事業として採択する。

（イ）評価委員からの意見
・地元商店街等の連携も期待できそうなので、今後の発展にも期待する。
・来場者アンケートをとって、次回以降の参考にするとよいと思う。

（ウ）助成額について
・助成額を 400,000 円とすることが妥当である。

⑧　一般社団法人　芭蕉の辻まちづくりの会

（ア）協議結果：助成事業として採択する。

（イ）評価委員からの意見

・事業実施の目的がまちのにぎわいの復活とのことだが、具体的にどう効果的なのかもう少しわかりやすく伝えると良いかもしれない。

・参加費と講演会の収支が合っていくと、事業としても成り立つのではないか。

（ウ）助成額について

・助成額を 300,000 円とすることが妥当である。

⑨　特定非営利活動法人　作並・新川地区活性化連絡協議会

（ア）協議結果：助成事業として採択する。

（イ）評価委員からの意見

・地域のにぎわいや少子化が課題となっている所を地域で解決しようとする試みが、とても素晴らしいと感じた。

・事業が多く、予算の内で実施できるか細かい設定が必要だと思う。

（ウ）助成額について

・助成額を 350,000 円とすることが妥当である。

⑩　関山街道フォーラム協議会

（ア）協議結果：助成事業として採択する。

（イ）評価委員からの意見

・地域の資源を上手に活用した活動だと思う。

・Facebook などインターネット媒体の活用も考えてはいかがか。

・事業スケジュールとしては詰めすぎのような感じがある。

（ウ）助成額について

・助成額を 165,000 円とすることが妥当である。

⑪　西川前びーんずクラブ

（ア）協議結果：助成事業として採択する。

（イ）評価委員からの意見

・地域のつながりを作るための味噌作りとのことで、とても良いツールだと思う。

・地域の伝統をうまく活用できていると思う。

・未定の部分が多く、心配がある。

（ウ）助成額について

・助成額を 150,000 円とすることが妥当である。

（3）その他

4　閉会